



平成 26 年 4 月 発 行
社会福祉法人 迦陵園
(児童養護施設)

〒606-0802
京都市左京区下鴨宮崎町 109
TEL (075)701-0250
発行人 松浦 弘 和
編 集 迦陵園 編集部

迦陵園 だより



迦陵園 基本方針

— 養育目標 —

- ◎ 子どもの命と人権を守る。
- 人間性豊かな子を育てる。
- 心身共にたくましい子を育てる。
- 健全な社会人として生きていけるような子を育てる。

子どもたちの就労体験

施設長 松浦 弘和

桜の咲く中、高校を卒業した子どもたちは、新しい職場へ、新しい学校へと巣立っていきました。中学校を卒業した子どもたちは、みな志望の高校へ進学をすることになりました。新しい職員を迎え、新たな年度が始まるのだと身がひきしまります。

昨年 11 月、施設長に就任いたしました。迦陵園に参りましてから日が浅いため、十分にお役に立てるのかと不安でした。しかし小島前施設長より丁寧な引き継ぎをしていただき、その後もご指導、ご支援を受けることができました。おかげさまで、昨年度の新たな取り組みもうまくいっています。入園児童も増え職員には多大な負担をかけていますが、職員も今まで以上にがんばってくれています。これも小島前施設長がしっかりと土台作りをしてくださり、また地域の皆様、後援会の皆様のご支援くださった御蔭です。ありがとうございました。

今年は、昨年始めたフロア担当制、みんなで祝う誕生日会等の取り組みを引き続き行い、定着させるとともに、内容を充実させたいと考えています。さらに新たな試みとして京都中小企業家同友会の社会問題研究会のみなさんと子どもたちの就労体験を始めています。

社会問題研究会とは児童養護施設の子どもの卒業後の自立の手助けをしようと、京都中小企業家同友会の有志の方々により設立された会です。児童養護施設の子どもの社会に出て自立できるように在園中に就労体験をするとともに、社会に出てからも頼れる大人との関係を築いていくことを目指されています。具体的には、社会問題研究会の皆さんが定期的に迦陵園で子どもたちと面会し、子どもたちの将来の夢や仕事への思いを確認し、それぞれの子どもの適した就労体験の場を設定してくださり、子どもたちは主に長期の休みを利用して数日から 2 週間程度、大人に交じって働く体験をします。すでに数人の子どもが就労体験をしました。

子どもたちは、いつかは園を巣立ちます。成長し社会に出ていくことはうれしいことではありますが、社会に出て無事にしっかり生活していけるのか、とても気になっていました。何らかの支援が必要だとはわかっているのですが、園だけでは十分なことができないのが実情です。今回、社会問題研究会の皆さんとともに卒業後に備える機会が与えられたことに、とても感謝しております。就労体験を通して子どもたちに働くとはどういうことか、自分はどのようなことをしたいのかを考えてもらうとともに、「社会に出てこの人たちが見守ってくれる、この人たちに相談しよう」という人間関係を築いてほしいと願っています。

昨年 10 月に「園庭開き」を行い、多くの方々にお越しいただきありがとうございました。今年度からは「迦陵園こども祭り」として毎年開催することになりました。第 1 回の「迦陵園こども祭り」を下記の通り開催いたします。楽しい祭りにしたいと思っておりますので、どうぞお越しください。

日時 平成 26 年 5 月 3 日 (土・祝) 12 時より

場所 児童養護施設迦陵園園庭



新規採用職員 挨拶

児童指導員 ^{タケウチ} 竹内 ^{モエ} 萌

この春から、児童指導員として勤めさせていただくことになりました、竹内萌と申します。

私は大学の 4 年間、臨床心理学を専攻しました。そこで学んだことを活かしながら、子どもたちの心に寄り添い、ぶつかり、共に成長していきたいと思っております。

未熟な点が多く、みなさまにはご迷惑ばかりおかけするかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

児童指導員 ^{ウメツ} 梅津 ^{ユキオ} 幸生

4 月から児童指導員として勤務させていただきます、梅津幸生と申します。静岡県出身の 22 歳です。運動することが好きで、趣味で競技かるたをしています。

学生時代では、教育実習などで子どもとふれあい一緒に活動する機会が多々ありました。その中でどのように子どもたちと接していけば良いのかを考えさせられる経験をたくさんしました。就職を考える際そのような経験を活かして働くことができないか考え、児童指導員という仕事を知ることができました。児童福祉に携わることは初めてですが、私なりに子どものことを考え行動していきたいと思っており、子どもたちが楽しく充実した生活を送ることができるよう、少しでもお役に立ちたいと考えています。

至らない点が多い私ですが、子どもたちとともに成長していけたらと思っております。皆様のご指導をどうぞよろしくお願いいたします。

保育士 ^{ナゴシ} 名越 ^{イクミ} 育未

4 月から保育士として勤務することになりました、名越育未と申します。

短期大学で児童福祉を学びました。

子どもと関わる職に就きたいと思った時、一番最初に浮かんだのが児童養護施設でした。ご縁があり迦陵園で働かせていただくことになりました。

年齢も若く、経験・知識ともにまだまだ未熟ではありますが精一杯努力していきたいと思っております。

職員の方々に支えてもらいながら子どもたちと、ともに成長していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

退職にあたって

児童指導員 篠木 遥

3 年間迦陵園にて指導員として働いてきましたが、この 3 月をもって退職することになりました。

迦陵園に来て気が付けば 3 年がすぎ、あっと言う間だったと感じています。日々いろいろな出来事が起き、子どもたちと笑ったり怒ったりしながら過ごした日々は本当に濃い毎日で、私にとって大切な時間だったと感じています。3 年間でどの子どもも心身ともにとても成長しており、子どもたちの成長を一番身近で最初に感じられることが何よりの喜びでした。

何かと至らないところが多く、たくさんの迷惑をかけてきましたが、子どもにも職員にもいつも助けられ支えられたお陰でこの 3 年間過ごしてこられたと感じています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

園内 卓球大会



児童指導員 木村 剛士

正月気分も抜けてきた 1 月 19 日の午後から迦陵園内卓球大会を行いました。昨年末に美鈴後援会より頂いた念願の卓球台は年末から休むことなくみんなが使っていました。その成果を発揮すべく多くの子どもたちが参加しました。下級と上級の部に分け、上級の部には職員も参戦し、勝負に挑みました。フルセットまでいき中々決着

のつかない試合や、点差が開いていたのが追いついた試合などどの試合も白熱し、周りで見ている子たちも自然と声を出して応援していました。全ての試合が終わりみんなでおやつを食べながら白熱した試合を振り返っているとまた卓球がしたくなりすぐに次の試合が始まっていました。この卓球大会を続けることで子どもたちの交流が増えていくことを嬉しく思います。

琢磨会 楊さん料理奉仕

児童指導員 川邊 直樹

今回も楊さんからあげ、エビチリ、大学いも、など多くの中華料理を作っていただきました。子どもたちは本場の中華料理が食べられるのでいつも楽しみにしています。

いつものことですが、作っていただいた料理はすぐに平らげてしまいました。子どもたちは食べ終わると、また食べたいなあと言い、満足そうでまた楊さんに作ってもらいたいと言ってくれます。これからも、美味しい料理を楽しみにしています。

ごちそうさまでした。



京都ロイヤルライオンズクラブ招待 ボウリング大会



児童指導員 木村 剛士

冬ばれの 2 月 1 日京都ロイヤルライオンズクラブの方々にボウリングに招待していただきました。小中学生は初めての子も多く、ボウリング場に着いた瞬間から心からウキウキしているような状態でした。最年長の Y がストライクを取ると周りの子が羨望の眼差しで見つめていました。調子が出てきた中学生が後に続き、重たそうにボウルを転がす小学生がいたりとても賑やかで、楽しい時間はあっという間に終わってしまいました。昼食後の結果発表ではチーム賞と個人の賞の両方に景品をいただき子どもたちは大はしゃぎでした。後日ボウリング場の近くを子どもと通った時に子どもはそのことをうれしそうに話してくれました。施設内で生活しているだけでは見られない子どもの楽しんでいる姿を見ることが出来てとてもよかったです。本当にありがとうございました。

オリックス財団招待 京都水族館



JR 京都駅西側の「京都水族館」に招待して頂きました。水族館には 9 つの展示ゾーンがあり、それぞれに魅力がある展示でしたが、特にペンギンゾーンでは、飛ぶように勢いよく泳ぐペンギンに参加した子どもたちは楽しそうに見入っていました。時々「サカナ、サカナ」と言って水槽を見て指さし大きな声が響いていました。

イルカスタジアムでは、イルカのパフォーマンスを 15 分程度でしたが、イルカに拍手を送りながら楽しむことが出来ました。魚のモビールを作りながら、クラゲ、オットセイ、「大きかったなあ」「こわいな」と口々に話しながら、一生懸命になっていました。当日はあいにくの雪になりましたが元気に楽しく過ごすことが出来、満足したようです。



保育士 山本 千春

歌劇招待



2 月 9 日滋賀の琵琶湖ホールにておこなわれたホフマン物語に中高生 5 名程招待していただきました。会場に入ると人の多さとその舞台の装置がどのように使われるのかが気になり、高校生の男の子とギリギリまで話していました。歌劇の内容は少し難しかったのですが横に字幕がでており、それを目で追いつつ、ストーリーをつかもうと必死になっていました。普段は見れない環境を十分見ることが出来、帰りの車内ではストーリーと装置の動きなどの話でもちきりでした。またひとつ新しい経験が出来たことを喜ばしく思います。

有難うございました。

児童指導員 木村 剛士

㈱どこいこ レストラン会食招待

烏丸御池にあるレストランストラダというイタリア料理屋さんに招待いただきました。オーナーシェフ福村氏より、料理人という仕事について子どもたちにお話しいただいた後に皆で会食をしました。前菜盛り合わせやパスタ、鹿肉料理など彩り鮮やかな美味しい料理に子どもたちも喜んでおりました。

日頃食べられないメニューである料理の数々は子どもたちに驚きと発見を与えてくれました。「これは苦手」と話していた子どもがシェフ直々にパンに乗せる食べ方を教わっていたりもしました。すると「おいしい」と。

シェフの経験談は、中高生に対して働くこと、仕事への興味につながるものとなると思います。料理人などなりたい職業をみつけた子どもたちがシェフの話を思い出し、前向きに夢を持って努力できるきっかけとなり、子どもたちの励みの糧となるよう願っています。



主任指導員 若林 里仁

育事協 文化の集い

児童指導員 松吉 政和

2月22日土曜日、今年も文化の集いに参加させて頂きました。京都市内の児童養護施設が集まり、楽器の演奏やダンス、劇発表など中身の一杯詰まった楽しいお祭りとなりました。特に最前列で観たブレイクダンスは迫力満点。子ども達も「すごい」「かっこいい」など食いつくように鑑賞していました。

また舞台発表の外では、各園の子どもたちが制作した様々な作品が展示されており、どれもこれもが思いのこもった作品で展示の仕方なども各園で工夫をされていました。迦陵園も広い場所を頂いたので子どもたちの写真や作品を多くの人に見てもらうことができました。

今回は展示のみの参加でしたが、来年度はステージで子どもたちに「すごい」と言ってもらえるような発表をしたいです。

ひなまつりパーティー

児童指導員 澤 亮太



3月3日は何の日でしょうか。そう、「ひなまつり」の日です。家では見たことないような大きくて立派な雛壇を出してひな人形をかざりました。毎年、出したり片付けたりするのは男性職員としては少し大変と思ってしまうところが本音ですが、ひなまつりは女の子をお祝いする大

切な日。みんな集まってひな人形を観ながらひなまつりパーティーを開催しました。

午前中にみんなでドーナツを一生懸命作り、おやつからお菓子を並べてパーティーのはじまりです。小さい子どもはすぐにお菓子を食べたそうにしていますが我慢ガマン……。食べる前にひなまつりの由来や人形の役割、料理に込められた意味を説明します。ひなまつりに使用する人形や物・お料理のひとつひとつに意味があり、それを知ったうえで食べることが大切です。

行事はパパッと終わらせてしまおうと思いがちになってしまいますが、その意味を知らないと行事の大切さが見えてきません。子どもにしてみれば難しいお話です。すぐに忘れてしまうかもしれませんが、とても楽しい時間を過ごすことができました。



王将フードサービス 高3生記念品贈呈・記念式典

主任指導員 脇戸 真実子

去る 3 月 12 日、株式会社王将フードサービス様主催の「卒園記念品贈呈式および卒園記念食事会」にお招きいただきました。京都・滋賀の児童養護施設から約 30 名の高校 3 年生が参加する中、迦陵園からは高校 3 年生 4 名全員が参加させていただきました。そのうち男子 1 名が、卒園児童を代表して謝辞を述べました。彼は卒園後、王将フードサービスに就職が決まっています。私は彼を 3 年間見てきましたが、3 年前からは想像もできないほど堂々と立派に務めており、成長を見てとることができました。就職後も会社の一員、社会の一員として成長してくれることを願っています。

式典後、洋服の青山にて礼服を作っていたいただき、さらに餃子の王将堅田店にて食事を頂きました。これから社会に出て行く子どもたちにとって礼服は欠かせません。園ではその準備もしてやれない中で、毎年王将フードサービス様に礼服を作っていたいただけることは、卒園生にとって何よりものお



祝いです。社会に出てきちんとした場でそれにふさわしい服装ができることは、自信につながるのだと思います。胸を張って社会に出ていけると 4 人ともとても喜んでおりました。

最後になりましたが、王将フードサービス様には、今回以外にも夕食招待などをしていただいております。卒園児童だけでなく園全体でお世話になっています。いつも温かいご支援をいただき、この場を借りて改めて感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

卒業・卒園お祝い会

主任指導員 松本 悟史

3 月 21 日、今年も日頃からお世話になっているわかさ生活の方等が駆けつけて下さる中、平成 24 年度卒業・卒園お祝い会を行いました。

今年は、卒園していく児童が 3 名と昨年よりも多くの子どもたちが迦陵園を巣立っていくということもあって、昨年とはまた違った雰囲気の中行われました。

卒園生たちに向けて在園生からそれぞれ心のこもった手紙などでメッセージが伝えられ、今年それぞれお世話になった学校の先生等からも手紙が届きました。卒園生にとってみるとそれらのメッセージは今後の宝物になっていくことと思います。そしてそれにこたえるように、卒園生からも在園生に向けて、メッセージが伝えられました。そのメッセージのやりとりをきいていて、みんな成長してくれたなど今年も実感することが出来ました。

今年卒園する 3 人の子どもたちにもこれから社会に出ても、立派に働いて行って欲しいと思いますし、幸せをつかんで行ってほしいと思います。

来年は今年以上に素晴らしいお祝い会を開くことができるように、残った子どもたちと一緒に園での生活をさらに充実したものにしていきたいと思っています。



プロレス観戦招待

主任指導員 松本 悟史

これまでも何度も招待して頂いているプロレス観戦ですが、今年も 1 月、2 月にはドラゴンゲートプロレスに、3 月には WRESTLE 1 プロレス、全日本プロレスに招待していただきました。

子どもたちは、いまやどの団体の興行に行かせて頂いても、それぞれにお気に入りの選手がおり、その選手が出てくると、一生懸命応援しているのですが、中でも 3 月に観戦に行った全日本プロレスの大会では、昨年のクリスマス会に来て下さったエイサー 8 選手が出場されるので、今まで一度も観戦に行ったことのない幼児さんたちまでもエイサー 8 選手を応援しにいきたいということで観戦に行かせて頂き、みんなで一生懸命応援していました。

子どもたちはプロレス観戦させていただく度に、口をそろえて楽しかったと言い、元気をもらって帰園しています。

このような機会を与えていただいた㈱サンホーレンの岡村様、R プランニングの山内様、本当に有難うございました。今後とも宜しくお願い致します。

大相撲京都場所招待

児童指導員 木村 剛士

6 年ぶりの京都での開催となる大相撲京都場所に招待していただきました。はじめこの招待をいただいたとき子どもたち以上に職員が盛り上がっていました。子どもたちは「なんで？」というような表情でした。ですがこの滅多とない機会を、経験をさせてあげたいと思い日頃の会話に少し相撲を忍び込ませ伝えていきました。

当日は晴天に恵まれ、桜も芽吹きだしていたこともあり心も明るく、観戦するに到りました。横を通り過ぎていく力士の大きさに驚きと感動を隠せず、「でかっ。すげー」と言うフレーズを何度も耳にしました。子どもだけでなく職員も一緒に感動することができ、同じものを共有できたことにとっても満足しました。ありがとうございました。



お花見



児童指導員 木村 剛士

心地よい風と桜の花びらが舞い、いよいよ春がやってきました。園全体で花見をするのも 2 回目となりました。幸い天候にも気温にも恵まれ鴨川の河川敷は季節感が漂い、お花見をするのにも最適でした。子どもたちは桜の下でおでんとおにぎりをほおぼり満足げ。

子どもも職員も笑顔でいっぱいでした。これからもずっとこの笑顔の絶えない園にしていきたいなと思い園までの帰路につきました。

児童養護施設におけるセラピストの仕事の実際 第2回

～子どものセラピーとは何か～

心理療法士 横山 隆行

私の話が継続的に迦陵園だよりに掲載されることになりました。拙い文章ですが今後ともお付き合いのほどよろしくお願ひします。

第2回は子どものセラピー（心理療法）について詳しくお話したいと思います。私の実感では子どものセラピーはあまり世間の方に知られていないように思います。大人のように話を聞くのかと思われたり、どのようなものなのか想像できない方も多くおられるでしょう。子どもは自分の気持ちや考えを言葉で表現することが難しいので、だいたい小学生以下の子どもには遊びを使って気持ちを表現するプレイセラピー（遊戯療法）という方法が用いられます。なお、中学生や高校生になってくると大人と同じように会話を中心にしたものになります。

プレイセラピーでは気持ちが表現されやすい玩具をいくつか用意しておき、セラピストから遊びを誘導せず子どもに遊んでもらいます。子どもの遊びは、子どもの気持ちが直接的に表現されている場合もありますが、大抵の場合は象徴的だったり断片的だったりして、簡単に理解することは困難です。子どものセラピーを主な仕事にするセラピストは、子どもの遊びから気持ちを理解する訓練や経験を積むことで次第に理解できるようになっていきます。また、その気持ちを受け止めてセラピストと一緒に遊ぶのか、それとも気持ちを受け止めた上で何らかの組織だった言語化を行うかによって方法論が異なります。ちなみに私の行っているプレイセラピーは後者で精神分析的な心理療法と呼ばれます。

前回お話した身体的虐待を受けて入所してきたA君の話をもう少ししたいと思います。A君は私とセラピーを始めた当初、机の下に隠れていました。私がどうして隠れているのかと尋ねると、彼は天井から何か落ちて来ないか心配だと答えました。また、動物のフィギアを使った遊びではシャチが授乳するという場面を作ってすぐにそれを破壊してシャチをボロボロにしました。これらは何を意味しているのでしょうか。まず、机の下に隠れる表現ですが、A君には自分の周囲が安全だという感覚が希薄で、むしろ危険であるとおもっているのが分かります。さらに、彼にはセラピストが自分に攻撃をしてくる存在であるかもしれないという不安もあったことでしょう。実際A君は生活場面でも常に落ち着きがなく、他の子に威圧的に接していました。一方、シャチの授乳の表現からは、母性的なケアを求めるといつもぶち壊される、あるいは母性的ケアはいつも酷い暴力にとって代わったり、よい結果にはならないと感じていると考えられます。そのため、セラピストとの関わりも彼にとっては脅威と感じられていたと思います。

こういった子どもの遊びに表現される不安や恐怖に対してセラピストは何をするのでしょうか。私の行っているセラピーでは、このような気持ちを言語化して子どもが自分の気持ちを理解できるように支援します。おそらくA君は自分の周りは敵だらけだと思っていると考えられます。セラピストはまず、A君の周りは敵だらけなので常に警戒しないといけなさと感じていることをA君が理解できる言い方で伝えます。しかし、これだけでは大きな変化や効果は期待できません。セラピストはA君が同じような表現をしたときに何度も繰り返して言語化しながら、実際のセラピーでは何の攻撃も受けないし安全であることや、セラピストは自分の気持ちを考えてくれる人だということ、毎週決まった曜日の決まった時間に会い続けることで体験してもらい、固定化されたイメージを変容してもらうのです。こういった作業には数年単位の時間を要します。実際に私とのセラピーを5年以上続けている子どもも何人もいます。

このように、子どものセラピーは遊びを媒体として気持ちを表現してもらい、その気持ちをセラピストと一緒に考え続けることで、子どもを苦しめている否定的なイメージを変容していくことをめざすのです。

迦陵園子ども祭り開催のお知らせ

昨年、園庭びらきという名称で開催させて頂いた行事を、新しく「迦陵園子ども祭り」と題して今年も開催させて頂くことになりました。昨年と同様に、子どもたちと職員が共同で屋台を出したり、ゲームなどのイベントを行う予定です。迦陵園の各関係者や保護者、学校をはじめとする関係機関、御近所の皆様と楽しく過ごしたいと考えておりますので、どうぞお気軽にご参加下さい。

迦陵園子ども祭り

日程：平成26年5月3日（土・祝）

時間：12:00～

場所：迦陵園園庭

内容：屋台やゲーム、特別ゲストを迎えてのお楽しみイベント等

*駐車場はございませんので公共機関でお越し下さい。

編集者からの
ひとこと

編集委員 木村 剛士
新年度を迎え子どもたちはまた一つステップを踏みあげました。日々の生活、招待行事等を通して色々なことを知ってほしいと思います。行く行くは誰もが大人に、社会人になるので不安を恐れずたくさんの事に挑戦してほしいなと思います。